

自己内の活動①

他者との活動

問いは分かりやすく、答えが多様な発問①

良いか悪いかや、適否、美醜など、**明確に判断させた後に、その理由を考えさせます。**

例えば、「この場面の主人公はどんな気持ちでしたか。」とだけ問うより、「前の場面と比較して、主人公の立場は良くなったか悪くなったか。」と問うた後、その理由を聞いた方が、言語活動は活性化します。

場面4

場面3

場面2

場面1

「前の場面と比べて、お百姓に対する地主の立場は良くなっていますか、悪くなっていますか。」「教科書のどの叙述からそう思いましたか。」

自己内の活動①

他者との活動

問いは分かりやすく、答えが多様な発問②

他と異なる箇所に着目させ、その違いをヒントに、人物の心情の違いを考えさせます。

「門の前」と「中庭」の違いは何ですか。その違いから、人物の心情のどんな違いが分かりますか。

「こりやあ、だれのゆるしをえて、わしの  
門の前でねておる。」  
……  
……  
「こりやあ、だれのゆるしをえて、わしの  
中庭でねておる。」  
……  
……  
「こりやあ、だれのゆるしをえて、わしの  
板の間でねておる。」

叙述の相違点や共通点に着目すると、作者の意図や人物の心情の変容などが見えてきます。

自己内の活動①

他者との活動

問いは分かりやすく、答えが多様な発問③

同じ人物の、異なった場面での言動に着目させ、人物像を考えさせます。

前の場面に、「ねむっていたはずの地主が、目をさましてどなりつけました」とありますね。とすると、「だまって家の中に入った」た時の地主の気持ちはどうでしょう。

……  
あせびつしよりのおひやくしようが、ひと休みしようと木かげに入りかけたたん、ねむっていたはずの地主が、目をさましてどなりつけました。  
……  
……  
たしかに、木かげはきつちりと門までのびていたので、地主はだまって家の中に入っていききました。  
……

その部分だけで判断させたり考えさせたりするのではなく、他の場面の叙述と比較させて考えさせることが重要です。